

卒業後の生活を見据えた自律的・主体的な取組を軸とした検定へのチャレンジ

【学校名：千葉県立湖北特別支援学校】

 ~取組のポイント~

パソコン入力検定受検希望者へ、検定合格に向けた放課後の活動として講習会を設定し、主体的な取り組みを促した。 ※「自分を律する」という願いで『自律的・主体的な取組』とした。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

高等部普通科・専門学科 希望生徒

(2) 教科・領域

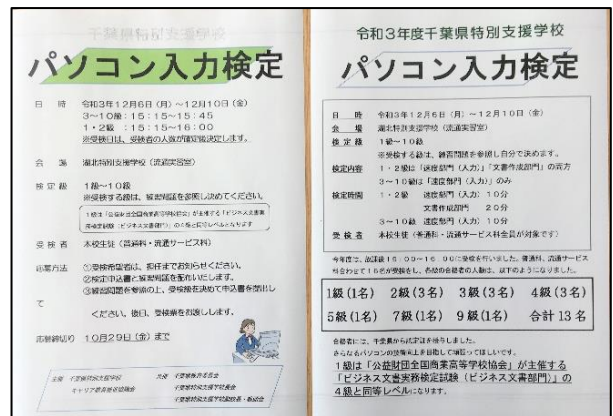
・放課後

(3) 目標

- ① 県内統一の基準に基づくパソコン入力に関する技能検定を通して、主体的な学びを推進するとともに、パソコンの好きな生徒を育成する。
- ② パソコン入力検定への取り組みを通して、自律し主体的な取り組みを促し、検定後の達成感につなげることができる。

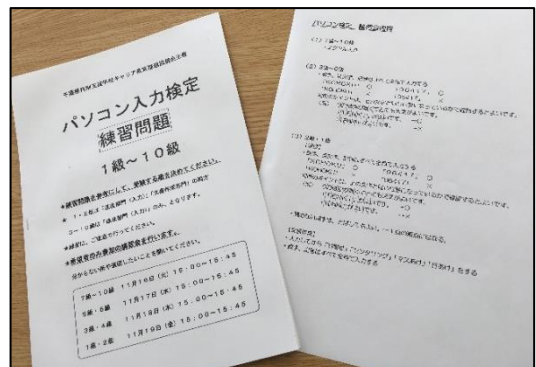
(4) 活動計画

- 10月初旬 パソコン入力検定実施案内・申し込み
- 10月下旬 校内講習会の日程通知
- 11月中旬 講習会の実施
- 12月 パソコン入力検定の実施



2. 実践の内容

- ・受検希望者へ練習問題冊子を配付し、学習は原則家庭で行う。
- ・検定2週間前の放課後に講習会を設定し、自分の課題や疑問を確認する時間とする。
- ・受検予定者・講習会参加者を職員が職員室へ掲示し担任が支援できるようにする。
- ・質問は随時受け付けて、朝の時間や昼休みに確認できるようにする。
- ・合格者は、2学期終業式にて校長より表彰を行う。



3. 工夫点

- ・普通科・専門学科ともに同様の流れで実施した。普通科の自力下校生徒以外は、保護者の迎えとし、自力下校生徒も学校最寄り駅までの下校指導を行い、両学科とも講習会の機会は均等としている。
- ・講習会時に技能を確認し、上位の級を目指せる生徒にはチャレンジを促した。同様に、技術的に厳しい生徒とは話し合っ、受検級を見直すこともした。
- ・主体的な取り組みとするため、定期的な言葉かけを行い、自分で考えて受検までの練習計画を立てられるようにした。

4. 実践の評価（成果と課題）

(1) 成果

家庭学習の習慣を促す機会となり、目標に向かって自律して学習する力を育むことができた。講習会の際に練習を行う中で、自分で考えた課題や疑問を教員とともに振り返り、課題を解決するために必要なことを一緒に考えた。その取り組みを通して、課題解決の方法を学ぶことができた。

講習会の日と現場実習が重なった生徒は、事前に相談に来て講習会の日を別日で調整してもらうなど、必要な報告・相談ができたことで合格につながった。このことは、検定を通して働く力の育成につながったと感じる。

講習会に参加した生徒は、自己の技能に即した適切な級の合格を達成することができた。合格が成功体験となり、課題解決の力を育むとともに自己肯定感を高めることができた。統一された客観的な評価は、生徒の自信につながり、次年度の学習意欲にもつながった。また、生徒の合格、保護者・生徒の喜ぶ姿は、指導した教員の自己有用感にもつながり働きがいの一助ともなる。

(2) 課題・展望

講習会に参加をしなかったり家庭での練習に取り組めなかったりした生徒は、十分な検定結果を得ることができなかった。本校においては、卒業後の福祉就労・企業就労に向けて日々学習している。在学中も卒業後も、自律して活動・就労に取り組む姿勢が求められる。

時代の変化とともに、企業就労における障害者雇用の状況も変化している。言われたことを従順にこなしていただくだけではなく、自分で考え、関係する人と対話しながら進めていく力が求められている。そのため、検定の取り組みにおいても、自ら考え、対話を通して自ら判断するという過程を大切にすることが、卒業後の社会自立・職業自立につながると思う。

教員側の指導・支援の視点では、検定を通して生徒にどのような力を育てたいのかを明確にして臨まなければならない。福祉就労、企業就労の双方に必要な力を理解し、目的をもって検定へ取り組むことが肝要である。

